ホシノシンブン
（昭和30年月15日第三種郵便物認可）
自由民主 号外号
LIBERAL&DEMOCRATIC
自由民主党ホームページ
http://www.jimin.jp
発行 自由民主党 〒100-9910 東京都 千代田区永田町1-11-23 電話 03-3881-6211
発行元：自由民主党神奈川県第12選挙区（藤沢・寒川）支部　支部長
星野つよし
〒251-0052　神奈川県藤沢市藤沢973　相模プラザ第3ビル１Ｆ
TEL：0466-23-6338　　FAX：0466-23-6339
http://t-stars.com　@hossys　Hoshino tsuyoshi(星野剛士)
平成28年12月

他阿真円お上人と対談！！

前回の本紙面でも取り上げましたが、今日の自動運転技術の向上には目を見張るものがあります。これに関連して私、星野つよしは先日、遊行寺（藤沢市）の住職であられる他阿真円お上人とお話しする機会を頂きました。

御年 97 歳になられるお上人は、去る 11 月 15 日、ご自身の自動車運転免許証を藤沢警察署に返納しました。この出来事は、ニュース等大きく報道されたので、ご存知の方も多いと思います。

お上人が免許を返納した動機は、87 歳の方が運転するトラックが、運転操作のミスにより児童の列に突っ込み、1 人が亡くなったというニュースに接したからでした。

お上人は、「運転は好きな方です」と述べられた後で、「自分としては 100 歳まで（免許を）持っていたかったのですが、持っているとやはりどうしても乗りたくなってしまうので」といささか寂しそうに言葉を続けました。このとき私は、この結論はお上人が大きな葛藤と心の中で戦った上で苦しみながら出したのだと強く感じさせられました。

すなわち、100 歳まで免許を持ち続けたいという大きな目標と夢を諦めてまで、「事故を起こさないためにも返納しようという、いや、返納するべきだ」というような強い意志と自制心をその一言から垣間見ることができたからです。自動運転技術が更に向上すれば、運転操作ミスによる事故をかなりの割合で防ぐことができるようになり、高齢者の方でも安心して車を運転できることができるようになります。他阿真円お上人も免許証を返納することなく、夢を実現できたことでしょう。

2020 年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。それまでに自動運転技術が実用化されることを期待するとともに、その実現に向けて引き続き尽力して参ります。

星野代議士と他阿真円お上人との対談要旨

星　野:「先日、お上人が自動車運転免許証を自主返納されたというニュースが日本全国を駆け巡りました。そのニュースに接して是非そのいきさつをお伺いしたいと思い、本日はお時間を頂きました。今回自動車運転免許証を自主返納しようと思ったきっかけは何だったのでしょうか？」

お上人:「実は私は 100 歳まで（免許を）持っていたかったのですよ。その理由は、免許を取るときに教官に運転が上手いと褒められたこと、もうひとつは終戦を迎えたインドネシアで、物資を運ぶのにフォークリフトの運転をしたことです。おそらくフォークリストを運転した日本人は私が初めてだと思います。そういった事柄があって、100 歳まで持っていたいとずっと思ってきました。」

星　野:「それが自主返納しようというのは大きな心の変化ですね。」

お上人:「そうなのです。そのきっかけは、87 歳の方が運転するトラックが児童の列に突っ込み、１人の子が亡くなったというニュースに接したことです。将来のある子供が高齢者の運転ミスで亡くなったというのは、なんと痛ましいことかと思いました。するとどこからともなく『その歳になってまで免許を持っているなんてとんでもないことだ。人間歳を取ると昔できたことができなくなる。お前も事故を起こすかもしれない。すぐに免許を返せ！』という声なき声が聞こえてきたのです。それで返納を決意しました。」

星　野:「自主返納した際の反応は大きかったですね。」

お上人:「藤沢署へ返納に行ったら、返納式になっていて、そこへ取材の方たちが大勢来ていたのでビックリしました。23 社のマスコミ取材を受けて、その報道をきっかけに全国各地から色々な声が寄せられています。」

星　野:「自主返納についてはどう思いますか？」

お上人:「やはり目が悪くなるとバックや車庫入れで失敗するし、信号を見落とすこともあります。自分は大丈夫と思っても体力は衰えてきているという自覚が必要です。運転できなくなって不便になりますが、そこは助け合いの精神、つまり公助、共助、そして近助（近所）で乗り越えていき、困らないように社会で努めていくべきでしょう。」

星　野:「お上人の返納により、自主返納に関する社会的運動が広まったので、よいきっかけを与えて頂いたと思います。」

お上人:「今、自動運転が進んでいるのでしょう？」

星　野:「はい。実は私、経済産業大臣政務官の時に自動運転プロジェクトチームのリーダーを務めていました。今、事故の撲滅、交通弱者の支援等を目的に自動運転を実現しようと頑張っています。オリンピックのセーリング競技が江の島で開催されますが、その頃には湘南の海岸線を、お上人を乗せてロボットタクシーが走るようにしたいと思います。」

お上人:「オリンピックの頃には 101 歳になります。江の島開催は湘南藤沢を世界に向かって発信する良い機会です。『藤沢は住みよく良いところですよ！』と海外の人に是非アピールして欲しいです。」

星　野:「はい。藤沢を全世界に PR して、そして藤沢の景気回復並びに湘南ブランド確立に向けて邁進していきたいと思います。本日は貴重なお話をお聞かせ頂き、ありがとうございました。お上人の貴重なご意見を国政に反映していけるよう、尽力してまいります。」

他阿真円お上人プロフィール：

大正８年、愛知県岡崎市生まれ。旧制龍谷大文学部在籍中に南方戦線に出征、病気で２度窮地に陥るも回復。戦後、時宗の住職、布教師、幼稚園長、市議などを務め、平成 15 年、時宗宗祖一遍上人から数えて 74 代目の法主となる。現在、時宗総本山遊行寺住職